

# 特集！ 鉱工業生産指数の2015年基準改定と2017年年報

## 長崎県鉱工業生産指数2015年基準改定について



エヘン、12月に鉱工業生産指数の基準を2015年を基準年に変更したんだ。  
それまでは、2010年を基準にしていたんだよね。  
今から変更について説明します！



がんば君先生 質問！

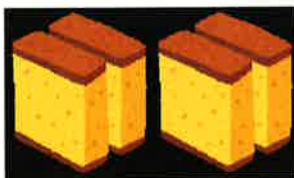
こーこーぎょうしえいしやん指数ってなんね？  
なんか むずかしかごたる。  
簡単に説明してくれんね。



OK！ 鉱工業生産指数は、同じ種類の生産量の大小関係を比率の形にしたもので、価格の変動を除いた数量にするんだよね。

具体的には 下の図を見てください。

基準月



県内の工場でカステラば4個生産

今月



県内の工場でカステラば2個生産



今月

2

基準月

4

$$= \frac{2}{4} = 0.5$$



基準値=100とすると  
今月の生産指数は**50**  
こいが**原指数**



簡単かね。よーわかったばい！

今回基準月ば、2010年から2015年に変更したとよね。

ばってん何で基準ば変えたとね。せからしか。



それはね。基準が古いままだと新しい業種の工場ができたり、工場で作る品目を変更したりした時に対応できなくて、基準年から離れるにつれて差が大きくなって困るんだ。  
 そこで、生産活動を正確に把握できるように基準を変更したんだ。  
 ちなみに今回は九州で1番速く基準を変更したんだ！



九州チャンピオンたい！

それやったら、業種や品目も見直しはしたとやる？



よか質問やね。  
 業種では、「情報通信機械工業」を新たに採用し、「プラスチック製造工業」、「パルプ・紙・紙加工品工業」、「印刷業」及び「木材・木製品工業」を統合して「その他製造業」に見直したんだ。  
 下の図を見た方が分かりやすいかも。

※品目の変更については県のHPをご覧ください！




平成22年基準 業種

平成27年基準 新業種

1.鉄鋼業	→	1.鉄鋼業	
2.金属製品工業	→	2.金属製品工業	
3.はん用・生産用機械工業	→	3.はん用・生産用機械工業	
4.電気機械工業	→	4.電気機械工業	
5.電子部品・デバイス工業	→	5.電子部品・デバイス工業	
6.輸送機械工業	→	6.情報通信機械工業	【新】
7.窯業・土石製品工業	→	7.輸送機械工業	
8.化学工業	→	8.窯業・土石製品工業	
9.プラスチック製品工業	→	9.化学工業	
10.繊維工業	→	10.繊維工業	
11.食料品工業	→	11.食料品工業	
12.木材・木製品工業	→	12.その他製造業 (プラスチック・紙・印刷・木材)	【統合】
13.鉱業	→	13.鉱業	



業種や品目の重要度に応じて重み付け(ウエイト)を付けているんだ。  
加重平均って方法でウエイトをつけているんだ。  
下の図を見てね！

	指数	ウエイト	指数値×ウエイト÷ウエイト合計	総合指数
	150.0	7000	$150.0 \times 7000 \div 10000 = 105.0$	合計 135.0
	110.0	2000	$110.0 \times 2000 \div 10000 = 22.0$	
	80.0	1000	$80.0 \times 1000 \div 10000 = 8.0$	



指数値は、さっきのカステラの計算方法ばつこうて出すとね。  
それやったら、今回の見直しでウエイトも変わったとね。  
どうやってウエイトば出すと？



ウエイトは、経済センサスー活動調査ーの付加価値割合を1万分にただけなんだ

ちなみに今回「電子部品、デバイス工業」が1361.2伸びて、輸送機械工業ば抜いて1番になったんだ！

前回1番だった輸送用機械工業は、1182.6低下しているんだ。

他には、はん用・生産用機械工業は、前回と同じくらいだったんだ。

他は、次の表ば見てみよう！

【新】

【旧】

業 種 名	2015年ウエイト ①	2010年ウエイト ②	増 減 ① - ②
鉱工業	10000.0	10000.0	0.0
製造工業	9992.1	9994.9	-2.8
鉄鋼業	140.5	119.3	21.2
金属製品工業	83.9	283.5	-199.6
はん用・生産用機械工業	2053.3	1991.6	61.7
電気機械工業	191.3	519.8	-328.5
電子部品・デバイス工業	3686.5	2325.3	1361.2
情報通信機械工業	101.4	-	101.4
輸送機械工業	1917.8	3100.4	-1182.6
窯業・土石製品工業	233.0	203.4	29.6
化学工業	69.5	103.3	-33.8
繊維工業	200.7	263.4	-62.7
食料品工業	1130.7	912.9	217.8
その他製造業 (プラスチック・紙・印刷・木材)	183.5	172.0	11.5
鉱業	7.9	5.1	2.8



これが今回のウエイトになっとね。  
ばってん、1年で見たらさあ、例えば、アイスば夏にたくさん生産するばってん、冬はちょこっとしか生産せんけん比較しにつかよね。



そういう問題のあるので、あらかじめ1年間の季節パターンを推計して影響を取り除くんだ。  
これを**季節調整**っていうだよ。  
(季節調整済指数 = 原指数 ÷ 季節指数)

ちなみに季節調整のやり方は、今まで直接法でしてたけど、今回から国に先駆けて間接法にしたんだ！

※「直接法」と「間接法」の違いは統計課のHPを見てください！

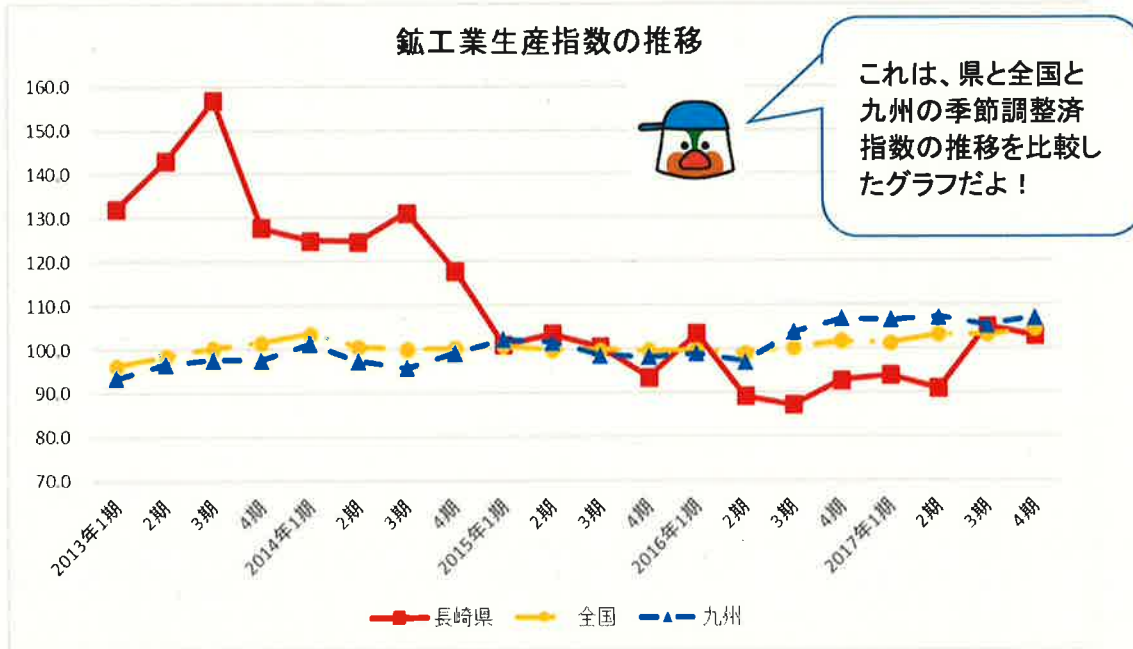


国(経済産業省)と九州経済産業局は、間接法ば断念したとに、長崎県は移行したとね。  
すごかー！！



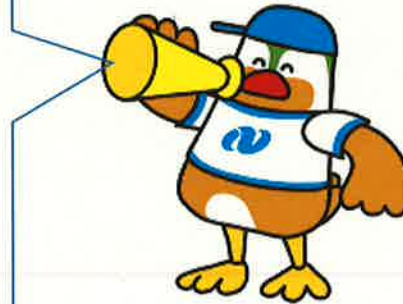
# 2017年長崎県鉱工業生産指数年報（2015年基準）

## 長崎県、全国、九州の鉱工業生産指数の推移



季節調整済指数の前期比を4半期ごとに見ると全国、九州はほぼ横ばいなのに、長崎県は2013年3期をピークに低下傾向にあるんだ。

2017年の前期比を見ると3期に15.6%と大幅に上昇した後、4期は2.1%減少したんだ。前年同期比は10.9%の増加となっているよ。

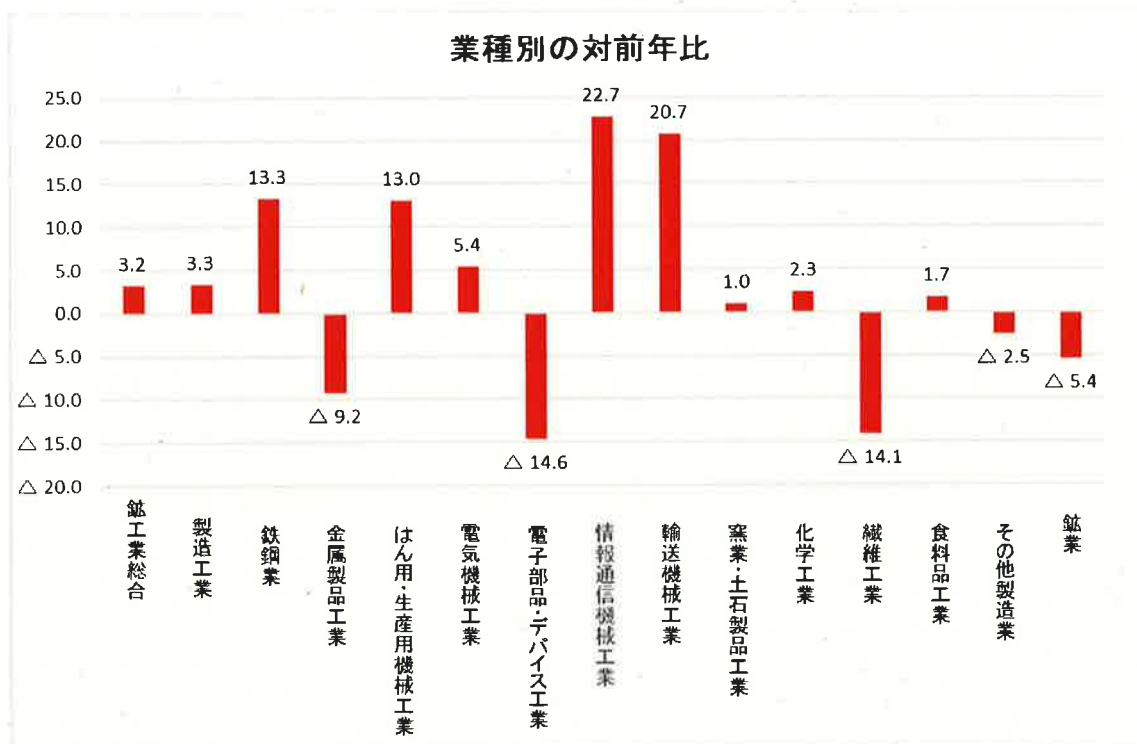


### 季節調整済指数

(2015年=100)

	長崎県		全国		九州	
	生産指数	前期比	生産指数	前期比	生産指数	前期比
2013年1期	132.2	-	96.3	-	93.4	-
2期	143.1	8.2	98.4	2.2	96.6	3.4
3期	156.8	9.6	100.3	1.9	97.6	1.0
4期	127.8	△ 18.5	101.6	1.3	97.6	0.0
2014年1期	124.9	△ 2.3	103.6	2.0	101.2	3.7
2期	124.6	△ 0.2	100.6	△ 2.9	97.3	△ 3.9
3期	131.1	5.2	100.1	△ 0.5	95.7	△ 1.6
4期	117.9	△ 10.1	100.2	0.1	99.0	3.4
2015年1期	100.9	△ 14.4	100.7	0.5	102.2	3.2
2期	103.5	2.6	99.8	△ 0.9	101.6	△ 0.6
3期	100.5	△ 2.9	99.8	0.0	98.6	△ 3.0
4期	93.5	△ 7.0	99.7	△ 0.1	98.2	△ 0.4
2016年1期	103.5	10.7	99.7	0.0	98.9	0.7
2期	89.1	△ 13.9	99.0	△ 0.7	97.0	△ 1.9
3期	87.2	△ 2.1	100.3	1.3	103.7	6.9
4期	92.8	6.4	101.7	1.4	106.7	2.9
2017年1期	93.9	1.2	101.3	△ 0.4	106.5	△ 0.2
2期	90.9	△ 3.2	103.2	1.9	107.1	0.6
3期	105.1	15.6	103.2	0.0	105.3	△ 1.7
4期	102.9	△ 2.1	104.4	1.2	107.1	1.7

## 業種別の生産動向



次は2017年の業種別鉱工業生産指数(原指数)見てみましょう。

前年水準を上回ったのは、情報通信機械工業(前年比22.7%)、輸送機械工業(同20.7%)等8業種でした。

下回ったのは電子部品・デバイス工業(同△14.6%)、繊維工業(同△14.1%)等5業種でした。



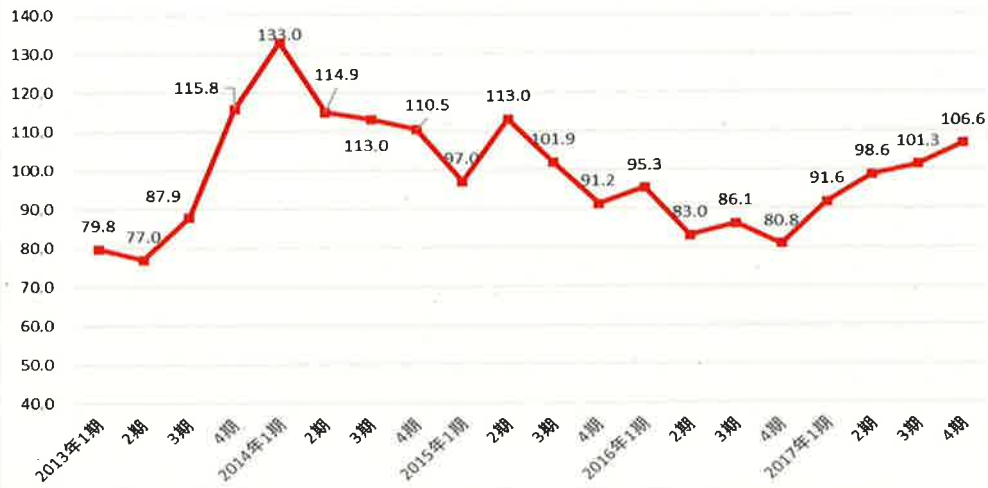
業種別鉱工業生産指数 (原指数)

(2015年=100)

項目	ウエイト	2016	2017	対前年比
鉱工業総合	10000.0	93.3	96.3	3.2
製造工業	9992.1	93.2	96.3	3.3
鉄鋼業	140.5	105.6	119.6	13.3
金属製品工業	83.9	83.4	75.7	△ 9.2
はん用・生産用機械工業	2053.3	87.2	98.5	13.0
電気機械工業	191.3	92.6	97.6	5.4
電子部品・デバイス工業	3686.5	80.6	68.8	△ 14.6
情報通信機械工業	101.4	74.6	91.5	22.7
輸送機械工業	1917.8	120.1	145.0	20.7
窯業・土石製品工業	233.0	107.4	108.5	1.0
化学工業	69.5	100.3	102.6	2.3
繊維工業	200.7	95.2	81.8	△ 14.1
食料品工業	1130.7	96.4	98.0	1.7
その他製造業	183.5	98.2	95.7	△ 2.5
鉱業	7.9	85.1	80.5	△ 5.4

## 主要業種の動向

### はん用・生産用機械工業の指数の推移



2013年から2014年にかけて大きく上昇してるね。その後に上昇や低下を繰り返したけど、2017年以降、4期連続上昇しています。

2017年の前期比を見ると、1期は13.4%と大きく上昇したんだ。前年比を見ても13.0%と大幅に上昇しているんだ。



### 電子部品・デバイス工業の指数の推移



2013年2期(216.7)をピークに減少傾向です。

2017年を見てみると3期から4期にかけて前期比24.1%と大きく上昇しています。

年間では原指数が80.6から68.8となっていて、14.6%減少しています。



### 輸送機械工業の指数の推移



2013年3期から4期にかけての低下後、2015年4期までほぼ横ばいで推移して、2016年以降は上昇・低下を繰り返しているね。

2017年を見ると2期から3期にかけて55.5%と大幅に上昇し、期間中最高となっています。また、前年比は20.7%上昇しています！

### 窯業・土石製品工業の指数の推移



2013年3期(147.6)はピークに低下が続いているけど、2015年2期以降は上昇・低下を繰り返しながらも、2017年3期まで上昇傾向となっています。

2017年の前期比を見てみると3期に12.6%と大きく上昇した後、4期は18.2%と大きく低下しているね。前年比は1.0%の増加となっています。

